

7. 管理データ様式

- 1 本仕様書に示されない様式については、土木学会、土質学会等制定の一般市販品又は施工者、製造会社等で独自に作成した様式にするものとする。

施工管理総括表の表紙記入例 (様式 1)

(様式-1)	
令和〇年度	
(工事名) 取りまとめ結果表	
でき形部分検査 または 工事完成検査	
施工者	受注者名
現場代理人	氏 名
監理(主任)技術者	氏 名

でき形測定結果表 (様式 2)

				用紙A-4
様式-2		Ⅰ 測定結果表		
測定項目			測定者	
測点	設計値 Ⓐ	測定値 Ⓑ	設計値との差 Ⓒ = Ⓑ - Ⓐ	監督員記事
記 事	[基準]	設計値	仕様書の範囲	
	[測定結果]	測定数	測定値との差の範囲	平均値
		合格判定値との対比		
<p>注)イ この様式は主として出来形管理の取りまとめに使用するものとするが、品質管理においても指定された場合は、この様式によるものとする。</p> <p>ロ 監督員の検査を受け、請負者の測定値の誤りが発見され、再仕上げを行って測定した場合はその結果を()で記入する。</p>				

(様式 3)

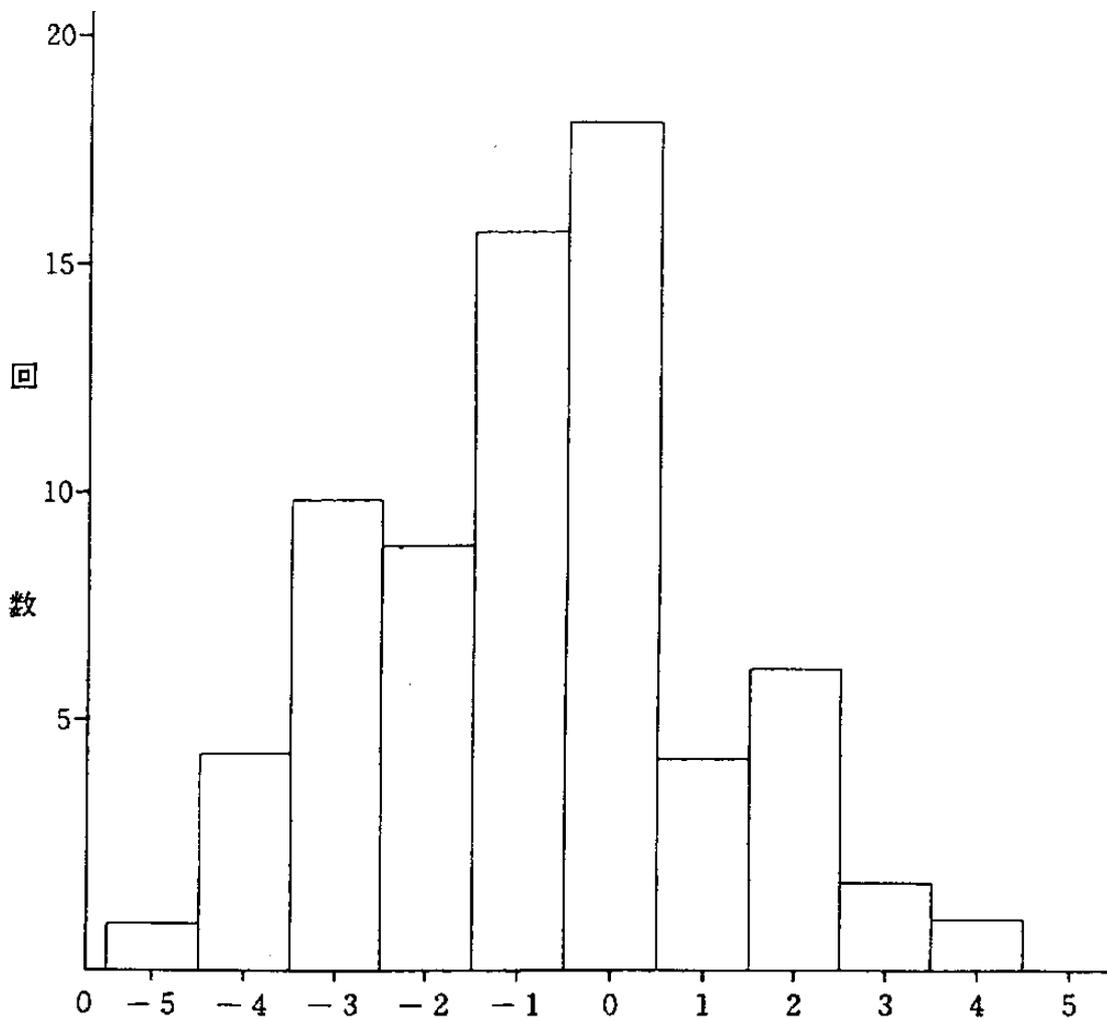
削除

でき形測定取りまとめ図 (取りまとめ例) (様式 4)

〔記入要領〕 でき形測定取りまとめ図 (取りまとめ例) 様式-4

- イ 路床・路盤・舗装体各層の設計値と測定値とのずれの差を記入する。
- ロ この図は、請負者測定の結果を整理したもののみを記入する。
- ハ 図の下には、算術平均値を記入する。

工種名	細粒度アス・コン工	高さの出来形測定
-----	-----------	----------



設計値とのずれの差(cm)

測定数 71

$$\left. \begin{array}{l} \text{差 } -85 \\ \text{差 } +26 \end{array} \right\} -59 \therefore \text{ずれの差の平均} = \frac{-59}{71} = -0.83\text{cm}$$

舗装路面の平坦性測定 (様式 5)

用紙 A-4

様式 - 5	舗装路面の平坦性測定	試験 用紙 報告															
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 45%;">調査・工事名 _____</td> <td style="width: 15%;">測定年月日 _____ 年 ____ 月 ____ 日</td> <td style="width: 40%;"></td> </tr> <tr> <td>測定開始点 _____</td> <td>測定機の種類 <input type="checkbox"/> 3mプロファイル</td> <td></td> </tr> <tr> <td>測定終了点 _____</td> <td><input type="checkbox"/> 3m直線定規</td> <td></td> </tr> <tr> <td>測定距離 _____</td> <td>測定者 _____</td> <td></td> </tr> <tr> <td>シート番号 _____</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			調査・工事名 _____	測定年月日 _____ 年 ____ 月 ____ 日		測定開始点 _____	測定機の種類 <input type="checkbox"/> 3mプロファイル		測定終了点 _____	<input type="checkbox"/> 3m直線定規		測定距離 _____	測定者 _____		シート番号 _____		
調査・工事名 _____	測定年月日 _____ 年 ____ 月 ____ 日																
測定開始点 _____	測定機の種類 <input type="checkbox"/> 3mプロファイル																
測定終了点 _____	<input type="checkbox"/> 3m直線定規																
測定距離 _____	測定者 _____																
シート番号 _____																	
No.	d	No.	d	No.	d	No.	d	No.	d								
1		21		41		61		81									
2		22		42		62		82									
3		23		43		63		83									
4		24		44		64		84									
5		25		45		65		85									
6		26		46		66		86									
7		27		47		67		87									
8		28		48		68		88									
9		29		49		69		89									
10		30		50		70		90									
11		31		51		71		91									
12		32		52		72		92									
13		33		53		73		93									
14		34		54		74		94									
15		35		55		75		95									
16		36		56		76		96									
17		37		57		77		97									
18		38		58		78		98									
19		39		59		79		99									
20		40		60		80		100									
①	Σ d	(mm)	*	②	Σ d ²	(mm ²)	*										
③	データ数	*	標準偏差 $\sqrt{((2)-①^2/③)/((③)-1)}$			(mm)	*										
備考																	
注) * 印の欄は、最後のデータシートのみ記述する。																	

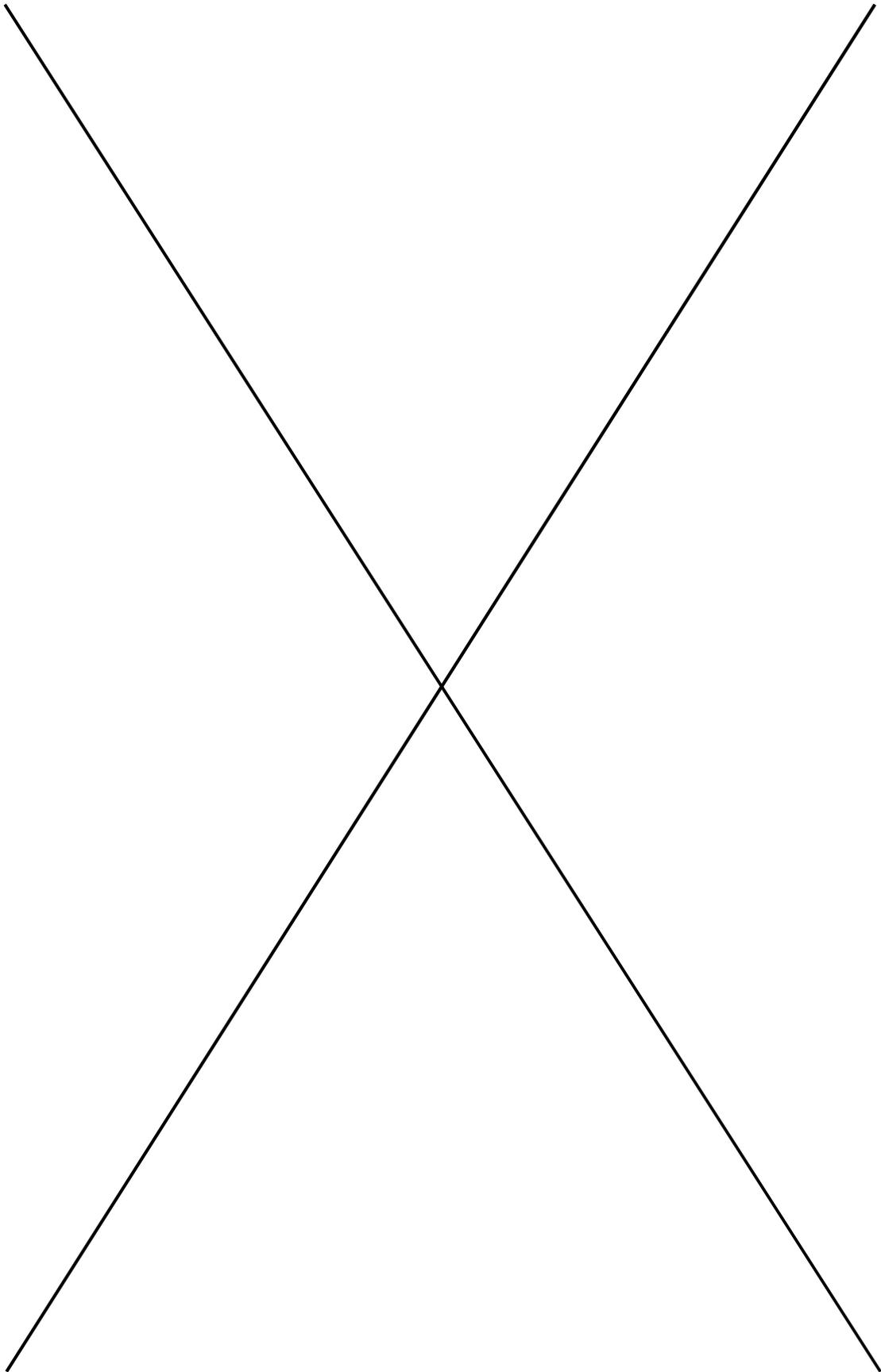
品質管理・公式・係数・記号表

品質管理・公式・係数・記号表

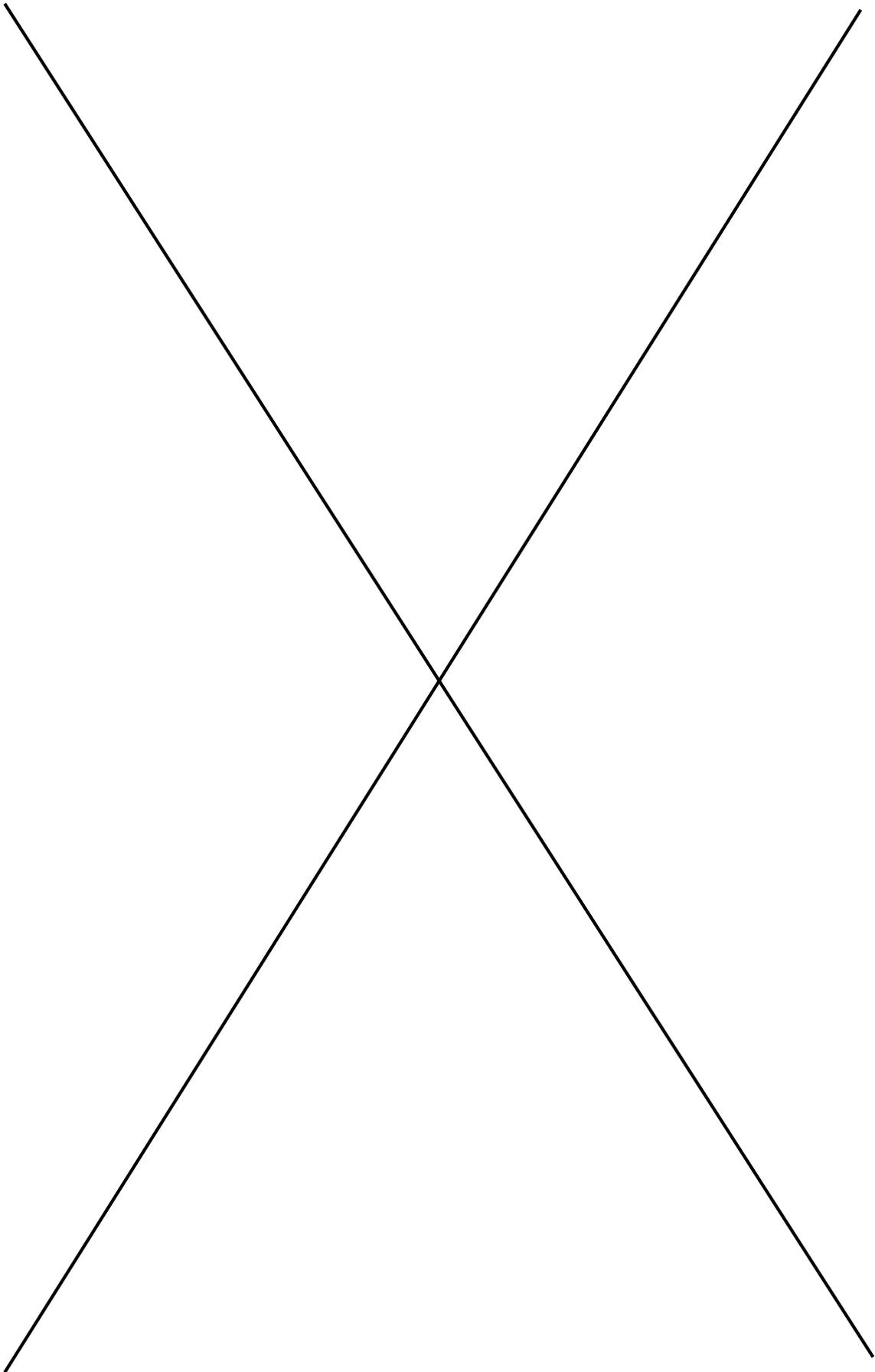
公 式	$\bar{x} - R$ 管理図		$x - R_s - Rm$ 管理図				
		\bar{x} 管理図	R 管理図		x 管理図	R_s 管理図	Rm 管理図
	C. L.	\bar{x}	\bar{R}	C. L.	x	\bar{R}_s	$\bar{R}m$
	U. C. L.	$\bar{x} + A_2 \bar{R}$	$D_4 \bar{R}$	U. C. L.	$\bar{x} + E_1 \bar{R}_s$	$D_4 \bar{R}_s$	$D_4 \bar{R}m$
L. C. L.	$\bar{x} - A_2 \bar{R}$	$D_3 \bar{R}$	L. C. L.	$\bar{x} - E_1 \bar{R}_s$	—	$D_3 \bar{R}m$	
$\bar{x} - R$ 管理及び $x - R_s - Rm$ 管理の管理限界は 3σ を原則とする。							
係 数	n	A_2	D_4	d_3	E_2		
	2	1.88	3.27	1.13	2.66		
	3	1.02	2.57	1.69	1.77		
	4	0.73	2.28	2.06	1.46		
	5	0.58	2.11	2.33	1.29		
記 号	x : 測定値			\bar{R} : $\Sigma R / K = (R\text{の和}) / (\text{組の数})$			
	$a, b,$: 測定値をきめるための個々の測定値			\bar{R}_s : $\Sigma R_s / (K-1) = (R_s\text{の和}) / ((x\text{の数}) K - 1)$			
	\bar{x} : $\Sigma x / n = (1\text{組の測定値の和}) / (\text{試料の大きさ})$			R_s : 移動範囲 (互いに相隣れる二つの測定値の差の絶対値)			
	$\bar{\bar{x}}$: $\Sigma \bar{x} / k = (\bar{x}\text{の和}) / (\text{組の和})$			Rm : 測定誤差に関する範囲			
	R : 範囲 = (x の最大値) - (x の最小値)			$\bar{R}m$: $\Sigma Rm / K = (Rm\text{の和}) / (\text{組の数})$			
				C. L. : 管理中心線 U. C. L. : 上方管理限界線 L. C. L. : 下方管理限界線			

廃止

X 管理図 (様式 6)



X-R管理データシート (様式 7)



廃止

X-R管理図 (様式 8)

用紙A-4

様式 8 X-R 管理図		名称			自	至	日
		品質特性			年	年	日
規格	最大	測定単位			期		
限界	最小	試	大きさ			間	者
		料	間			測	定
						者	者

x	R
組の番号	記事

[注] 1. 管理図は、様式(6)のx-R管理図データシートから記入する。
 2. 記事欄には、異常原因、その後必要事項を記入する。

廃止

X—Rs—Rm管理データシート (様式 9)

用紙A-4

様式 9																
X—Rs—Rm 管理図データシート																
名称						期間		自		年 月 日						
品質特性		測定単位				至		年 月 日								
規格 限界	最大					試料	大きさ		測定者							
	最小						間隔									
測点 又は 月日	試験 番号	測 定 値				計 Σ	平均 値 X̄	移動 範囲 Rs	測定値の範囲 Rm			項目	x̄	Rs	Rm	
		a	b	c	d				n=2	n=3	n=4					
	1															
	2															
	3											平均				
	4											個				
	5											数				
												小				
												計				
												累				
	6															
	7											平均				
	8											個				
												数				
												小				
												計				
												累				
	9															
	10															
	11											平均				
	12											個				
	13											数				
												小				
												計				
												累				
	14															
	15															
	16															
	17															
	18															
	19											平均				
	20											個				
												数				
												小				
												計				
												累				
$\bar{X} : \begin{matrix} U \\ L \end{matrix} CL\bar{x} \pm E_1 R_s$ $R_s : UCL = D_4 \bar{R}_s$ $R_m : UCL = D_4 \bar{R}_m$										n	D ₄	E ₂				
										2	3.27	2.66				
										3	2.57					
										4	2.28					
										5	2.11					

- [注] 1. 品質特性、測定単位は、施工管理基準により記入する。
 2. 規格限界、設計基準値は施工管理基準、設計図書、仕様書に定められた値を記入する。
 3. 管理限界線の引き直しは5+3+5+7+10+10+10方式による。
- [備考] 一管理限界線計算のためのデータの区間を示す。
 …上記の管理限界を適用する区間を示す。
4. 以下接近の20個(平均値xを1個とする)のデータをもちい次の10個に対する管理限界とする

廃止

X-Rs-Rm管理図 (様式 10)

用紙A-4
様式 10

X-Rs-Rm 管理図		自	期	年	月	日	
		至	間	年	月	日	
測定者							測定者
測定単位	試						測定者
	料						
規格	最大						測定者
限界	最小						
品質特性							
名称							

x	Rs	Rm
組の番号		
記事		

[注] 1. 管理図は、様式(6)のX-Rs-Rm管理図データシートから記入する。
 2. 記事欄には、異常原因、その後必要事項を記入する。

土質試験結果一覧表 (様式 11)

用紙 A - 4

工種名		測定者								
試料土 No										
試料土の深さ	地表面から									
	基準面から									
試料土採取年月日										
試料土採取時の天候										
土粒子の密度										
粒 度	最大径									
	2.0mmふるい通過率 %									
	425 μ " %									
	75 μ " %									
コ ン シ ス イ	液性限界 %									
	塑性限界 %									
	塑性指数									
分 類	統一分類法									
	日本統一分類法									
	見かけ									
自 然 土 と 締 固 め 土	現場含水比 %									
	現場乾燥密度 g/cm ³									
	最適含水比 %									
	最大乾燥密度 g/cm ³									
円 錐 貫 入 試 験 (コ ン シ ス イ 指 数)	地山 (N = 0)									
	室 内	N = 20								
		N = 40								
		N = 80								
		N = 120								
ボーリング柱状及び中心線 に沿う土層断面図										
記 事										

注) 記事欄には試験機関名その他の試験結果等を記入すること。

凍上土の突固め試験 (様式 12)

凍上抑制層の突固め試験 (様式 12)

用紙 A-4

様式-12

土 凍上抑制層の突固め試験

試料採取地名 _____

試料番号 _____

測定者 _____

試験目的: 普通締固め・CBR締固め 乾燥処理前含水比: _____ % 乾燥処理後含水比: _____ %
 試験方法の呼び名: 試験方法 試験開始前含水比: _____ % 土粒子の密度: _____
 突固め方法: _____ 試料の使用別: 繰返し法・非繰返し法
 モールド内径: 10cm・15cm _____ cm 試料の準備法: 乾燥法・湿潤法
 試料許容最大粒径 _____ mm 許容最大粒径以上の粗粒分の乾燥重量百分率 _____ %

測定番号	1	2	3	4	5	6	7	8
乾燥密度 γ_d g/cm ³								
平均含水比 w %								

含水比 w (%)

備考 * その他突固め方法: ランマー重量 _____ kg, 落下高 _____ cm, 突固め回数 _____ 回/層(層)
 ** 湿潤法を用いた場合

現場における土の単位体積重量試験 (砂置換法) (様式 13)

用紙A-4

様式-13

注 砂 法	現場における土の単位体積重量試験 (砂置換法)	報告用紙
調査名・調査地点		試験年月日 年 月 日
測点番号・深さ: No.		(m) 天 候
所 属		試 験 者

試験用の砂の検定	検定マスの深さ	H					
	測定器番号	No.					
	測定器および投入した砂重量 (一定重量)	W_1	g				
	測定器重量	W_2	g				
	投入砂重量	$W_s = W_1 - W_2$	g				
	検定容器および砂重量	W_3	g				
	検定容器重量	W_4	g				
	検定容器内砂重量	$W_b = W_3 - W_4$	g				
	測定器および残砂重量	W_5	g				
	測定器内残砂重量	$W_c = W_5 - W_2$	g				
	検定容器の体積	$V_c = 206 \times H$	cm ³				
	試験砂の単位体積重量	$\gamma_s = \frac{W_b}{V_c}$	g/cm ³				
	平均値	γ_s	g/cm ³				
	ベースフレードおよび漏斗を満たす砂重量	$W_f = W_s - W_b - W_c$	g				
平均値	W_f	g					

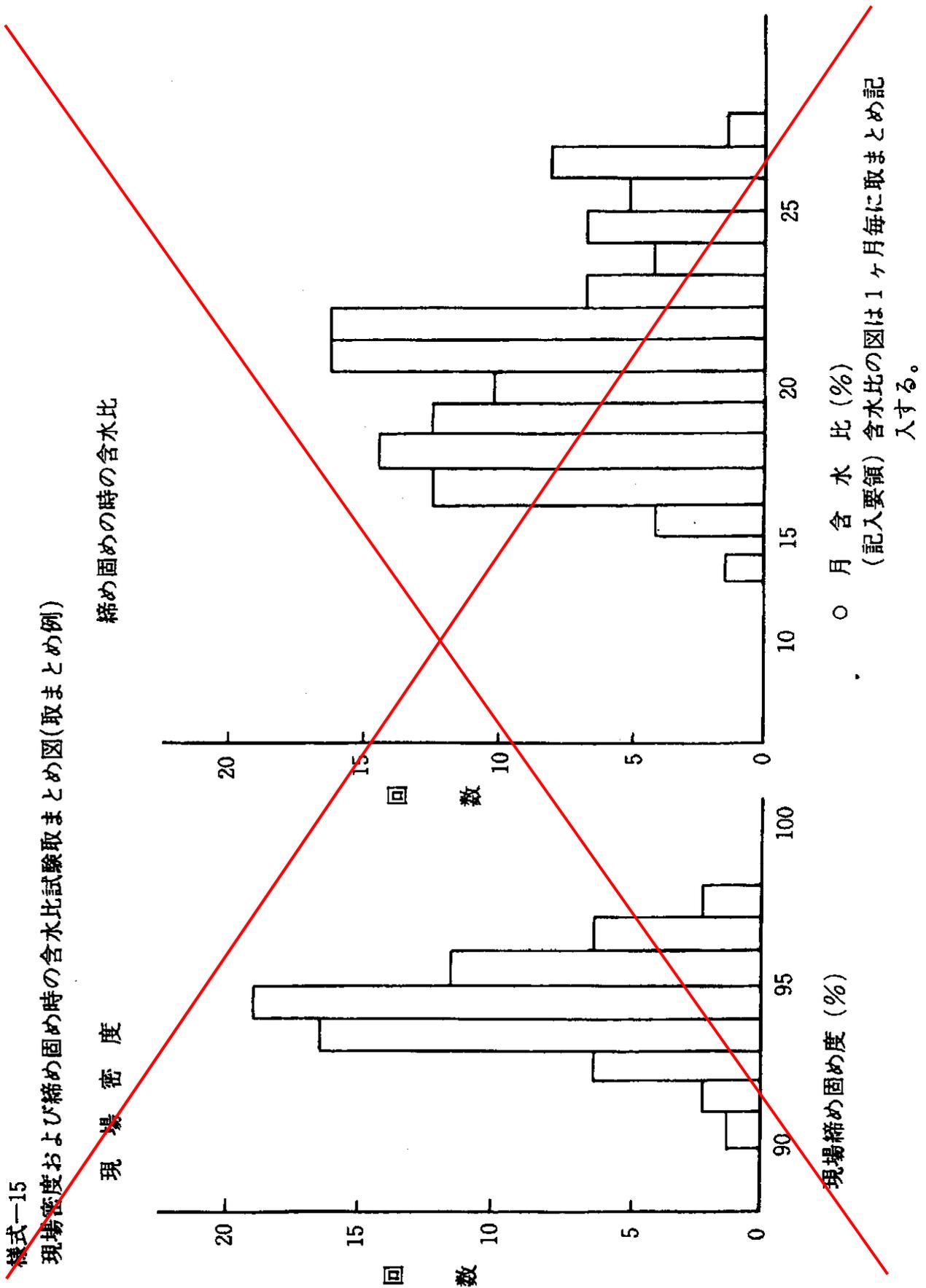
土の単位体積重量測定	試験孔番号	No.				
	土質名					
	土の最大粒径	Dmax	cm			
	容器番号	No.				
	(湿潤土+容器)の重量	W_6	g			
	容器の重量	W_7	g			
	湿潤土の重量	$W_d = W_6 - W_7$	g			
	測定器および投入砂重量	$W_8 (W_1)$	g			
	測定器および残砂重量	W_9	g			
	試験孔にはいった砂の重量	$W_{10} = W_8 - W_9 - W_f$	g			
	試験孔の体積	$V = W_{10} / \gamma_s$	cm ³			
	土の湿潤単位体積重量	$\gamma_t = W_d / V$	g/cm ³			
土の乾燥単位体積重量	$\gamma_d = \frac{100 \gamma_t}{100 + W}$	g/cm ³				

備考		
土の最大粒径	含水量試験量 試料最小量	粒度試験量 最小
0.5 mm	100 g	250 g
1.25	200 g	625
2.5	500 g	2,000
5.0	1,000 g	4,000

γ_s	γ_s	γ_s	γ_s
W_a ... W_b ...			
W_b ... W_c ...			
W_w ... W_s ...			
$w = \dots\%$	$w = \dots\%$	$w = \dots\%$	$w = \dots\%$
γ_s	γ_s	γ_s	γ_s
W_a ... W_b ...			
W_b ... W_c ...			
W_w ... W_s ...			
$w = \dots\%$	$w = \dots\%$	$w = \dots\%$	$w = \dots\%$
平均含水比 $W = \dots\%$	平均含水比 $W = \dots\%$	平均含水比 $W = \dots\%$	平均含水比 $W = \dots\%$

廃止

現場密度及び締め固め時の含水比試験取りまとめ図 (取りまとめ例) (様式 15)



試験盛土による盛土締固め総括表 (様式例) (様式 16)

試験盛土による盛土締固め総括表 (様式例)

様式-16

測定	土質種別	転圧回数	試験盛土の試験値		施工個所盛土の試験値		履帯中心距離	
			締固度 %	飽和度 %	締固度 %	飽和度 %	履帯巾×接地長 mm	mm
		3回						
		4回						
		5回						
		3回						
		4回						
		5回						
		3回						
		4回						
		5回						
		3回						
		4回						
		5回						
		3回						
		4回						
		5回						

(注) 1. 築堤試験盛土等の様式例である。
 2. 上表を参考にして各試験方法に応じ適切な総括表を作成すること。

凍上抑制層材料のふるい分け試験一覧表 (様式 18)

下層路盤 材料試験一覧表 (様式 18)

用紙A-4

様式 18

凍上抑制層材料のふるい分け試験一覧表

下層路盤

測定者

材料名

測定者

記事

注) 仕様書の粒度範囲を記入すること。

路盤材料の突固め及び修正CBR試験成績表 (様式 19)

用紙A-4

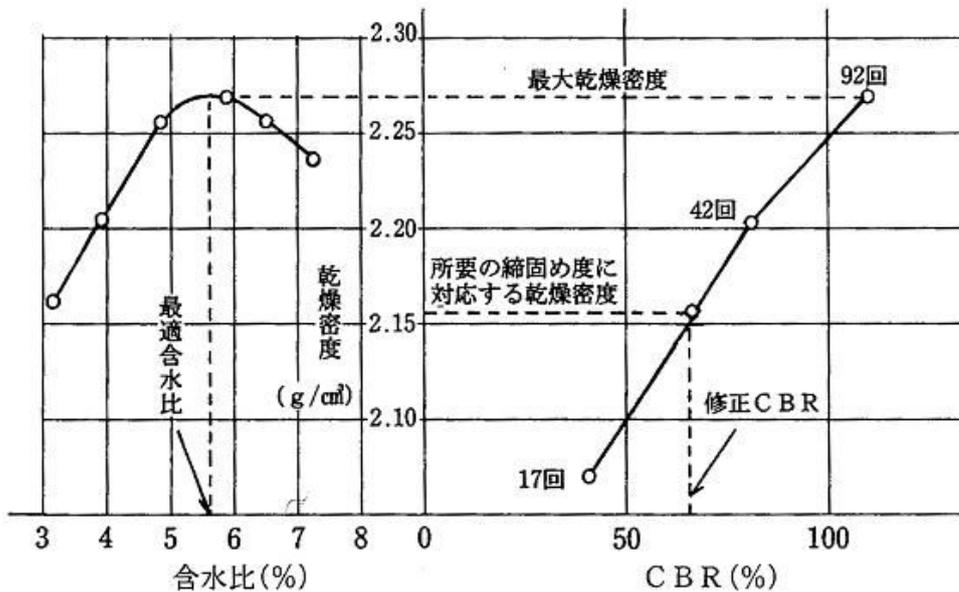
様式 19

路盤材料の突固め及び修正CBR試験成績表

測定者 _____

材 料 名	産 地	納 入 会 社

乾燥密度・含水比・CBR関係図



最適含水比 (%)	5.6
最大乾燥密度 (g/cm ³)	2.27
締固め度 (%)	95
修正CBR (%)	66

記 事

試 験 目 的 : CBR締固め
 試験方法の呼び名 : 試験方法 アスファルト舗装要綱
 突 固 め 方 法 : 第2方法
 モ ー ル ド 内 径 : 15cm
 試料許容最大粒径 : 38.1mm

試料の使用別 : 非繰返し法
 試料の準備法 : 乾燥法

測定番号	1	2	3	4	5	6	7	8
乾燥密度 γ_d (g/cm ³)	2.17	2.21	2.25	2.27	2.25	2.23		
平均含水比 ω (%)	3.2	4.0	4.7	6.0	6.6	7.4		

(注)記事欄には、試験機関名その他を記入すること。

基層工の骨材試験成績一覧表 (様式 21)

表層工の骨材試験成績一覧表 (様式 21)

用紙A-4

様式 21

基層工の骨材試験成績一覧表

測定者 _____

材 料 名	産 地	納 入 会 社	

アスファルト舗装用材料
砕石・砂利

粗骨材	比 重	
	吸 水 量	(%)
	す り へ り 量	(%)
	安 定 性	(%)

粗骨材	比 重	
	吸 水 量	(%)
	安 定 性	(%)

記 事

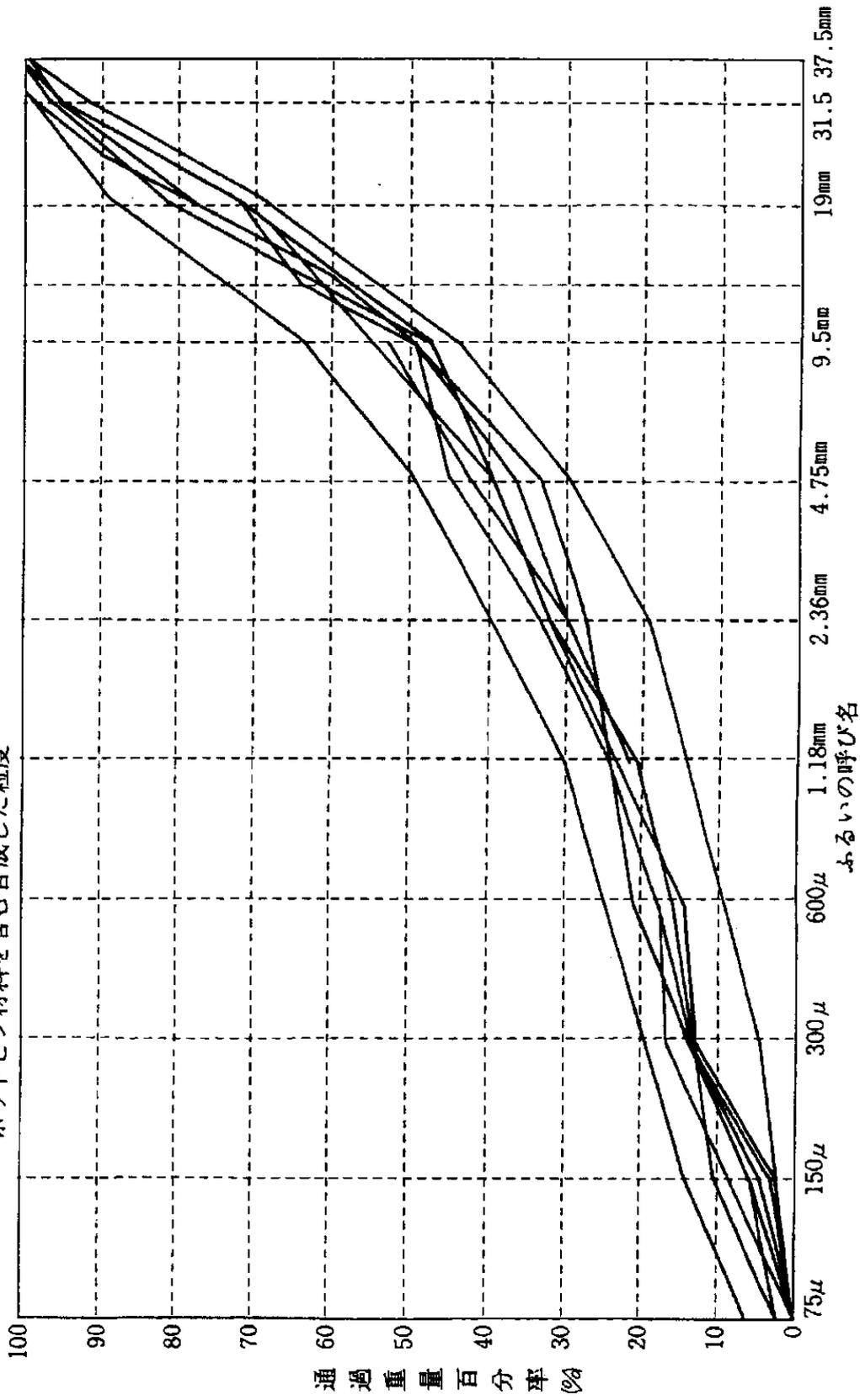
注)イ. 産地及び材料ごとに記入すること。 ロ. 記事欄には試験機関名その他の試験結果を記入すること。

ふるい分け試験取りまとめ図 (記載例) (様式 22)

様式—22

ふるい分け試験取りまとめ図 (記載例)

ホットピン材料を含む合成した粒度



ふるいの呼び名
(記入要領) 各工種ごとに作製すること。

(混合物名)

アスファルト混合物の温度測定結果一覧表 (様式 23)

用紙A-4

様式 23																			
アスファルト混合物の温度測定結果一覧表																			
工 種 名					測 定 者														
測 定 日	アスファルト混合物 温度℃		敷ならし時 温度℃		温 度 管 理 図 °C						摘 要								
	最高	最低	最高	最低	180	170	160	150	140	130		120							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; text-align: center; vertical-align: middle;">記 事</td> <td colspan="9"></td> </tr> </table>										記 事									
記 事																			

注)イ. 当日の最低、最高値をプロットする。
 ロ. 記事欄には最適混合温度、異常原因その他必要事項を記入のこと。

アスファルト混合物の密度試験結果一覧表 (様式 24)

用紙A-4

様式 24				
アスファルト混合物の密度試験結果一覧表				
工 種 名 _____			測 定 者 _____	
測 定 位 置	密 度 (g/cm ³)	締 固 め 度 (%)	締 固 め 度 管 理 図 (%)	摘 要
記	〔基 準〕仕様書の規格値		基準密度	
事	〔測定結果〕測定数		測定値の範囲	
合格判定値との対比				

計量自記記録合格判定値（様式 25）

用紙A-4

様式 25

計量自記記録合格判定値

1. プ ラ ン ト		
2. 合 材 の 種 類	細粒ギャップ・アスコン	
3. 1バッチ当計量値	800	kg
4. 適 用 粒 度	1・②	

※実施配合比及び配合値

骨材累積最終ビン	2.5mm直近ホットビン	石 粉	アスファルト
81.7%	38.4%	11.5%	6.8%
653.6kg	307.2kg	92.0kg	54.4kg

※合格判定値Ⅰ、Ⅱ

項目	判 定 項 目	合格判定値Ⅰ (kg)	合格判定値Ⅱ (%)
粒 度	骨材累積最終ビン	653.6 (±39.2)	—
		614.4～692.8	
度	2.5mm直近ホットビン	307.2 (±48.9)	53.0 (±11.0)
		258.3～356.1	42.0～64.0
石 粉	石 粉	92.0 (+19.9 / -13.8)	11.5 (+3.4 / -2.3)
		78.2～111.9	9.2～14.9
ア ス フ ア ルト	ア ス フ ア ルト	54.4 (±3.5)	6.8 (±0.8)
		50.9～57.9	6.0～7.6

上段・実施配合値(比)及び許容範囲
下段・計量値(比)許容範囲

計量自記記録値判定結果 (様式 26)

用紙A-4

様式 26

計量自記々録値判定成果

1. 合材の種類	細粒	ギャップ・アスコン	No.
2. 施工年月日			
3. 記録バッチ数	589	無効バッチ数	4 有効バッチ数 585
4. 合材出荷t数	467.835		

※各グループ別成果(第1次合格判定)

グループ No.	有効 バッチ数	範囲にはずれる箇數				備 考
		A	B	C	D	
		骨材累積 最終ビン	2.5mm直近 ホットビン	石 粉	アスファ ルト	
1	1~100	0	0	0	0	
2	101~200	0	0	1	0	
3	201~300	0	2	4	1	
4	301~400	0	0	1	0	
5	401~500	0	2	6	1	不合格→2次合格判定 舗設測定000~000
6	501 ~ 585 600	0	0	0	0	
7	601~700					
8	701~800					

※第2次合格判定

グループNo.5のC.....407.408.452.466.489.494

コンクリート管理試験日報 (様式 29)

用紙A-4

様式 29															
コンクリート管理試験日報															
供採 試取 体日	年 月 日			天 候	気 温	最高 最低	℃		測定者						
示 方 配 合	セメント (kg)	粗骨材 (kg)	砂 (kg)	混和剤		水 (ℓ)		現 場 配 合	セメント (kg)	粗骨材 (kg)	細骨材 (kg)	混和剤	水 (ℓ)	粗細骨材による量の調節	表面水量による調節
構造物	打設 位置	配合 種別	設計コン クリート量 (m ³)	コンクリート打設量			コンクリート 温 度 (℃)	スランプ (cm)	空気量 (%)	供試体採取数		備 考			
				バッチ数	m ³					7日	28日				
供 試 体 記 号・番 号	配合種別	養生方法	試験材令 (H)	供試体重量 (kg)	最大荷重 (KN)	圧縮強度(N/mm ²)		備 考							
						各 個	平 均								
記 事															

注)レディミクストコンクリートについては、現場配合の欄を省略することができる。

空気量、スランプ等の取りまとめ図 (様式 30)

用紙A-4

様式 30

空気量、スランプ等の取りまとめ図

測定者 _____

配合種別 _____

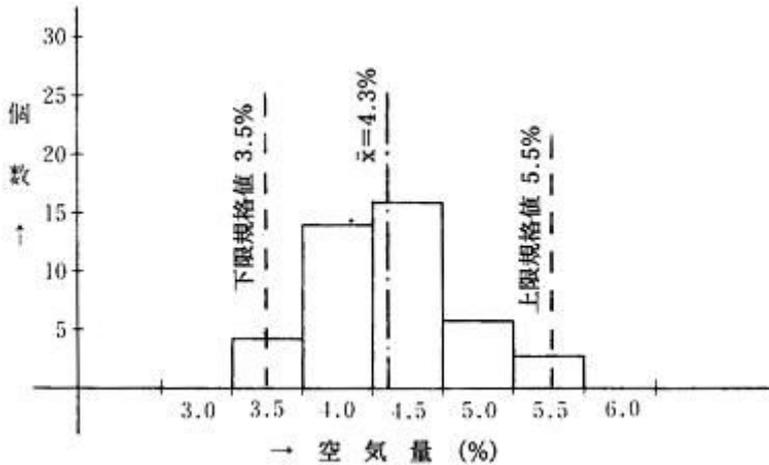
I. 空気量の測定

空気量 (4.5%) の場合
規格値 (±1.0cm)

$$n = 39$$

$$\bar{X} = \frac{3.5 \times 4 + 4.0 \times 13 + 4.5 \times 15 + 5.0 \times 5 + 5.5 \times 2}{39}$$

$$= 4.3\%$$



II. スランプの測定

スランプ (8cm) の場合
規格値 (±2.5cm)

$$n = 39$$

$$\bar{X} = \frac{6.5 \times 2 + 7 \times 4 + 7.5 \times 10 + 8 \times 16 + 8.5 \times 5 + 9 \times 2}{39}$$

$$= 7.8\%$$

